

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

| | | | | | | | | |
|-------------------|---|---------------------------------------|-----------|-----------------------------|--|-----------------|--------|-----------------|
| 1-1 事務事業の名称 | 駐輪場管理運営事業 | | | | | | | |
| 1-2 担当 | 部 | 市民生活部 | 課 又は施設 | 総務防災課 | 係 | 防災安全係 | 評価票作成者 | 交通・防犯担当係長 下廣美智子 |
| 1-3 総合計画における施策の体系 | ①節 | 都市基盤・産業振興 「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」 | | | ③基本施策 | 交通対策 | コード | 3-1-2 |
| | | | | | ④単位施策(中) | 駐車・駐輪場対策 | コード | 3-1-2-2 |
| | ②項 | 道路・交通 | | | ⑤単位施策(小) | 駐車・駐輪場の効率的な管理運営 | コード | 3-1-2-2-2 |
| 1-4 事務事業の目的の精査 | 対象と対象の数 | 駐輪場の利用者を対象 | | 意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか） | 効率的な運営とサービスの向上。また、駐輪場の防犯対策に努め、利用者が安全で安心して利用できる施設整備を図る。 | | | |
| 1-5 事務事業の内容 | 3駅周辺の自転車等駐車対策として現場に即した駐輪場の管理運営を民間委託する検討を行い効率的な運営とサービスの向上を図る。また、放置自転車の防止を図る。 | | | | | | | |

2 事務事業実施の状況

| 2-1 事務事業の実施における基本認識 | 事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み | | 社会状況等の事務事業がおかれる環境把握 | | 市民ニーズの認識 | |
|---------------------|---|---|---|---|----------|--|
| | 平成18年度 | 駐輪場の放置自転車防止の啓発及び指導の強化を行った。また、防犯対策と利用者が安全で安心して利用できる駐輪場の推進に努めた。 | 放置自転車がなく安全で快適な交通環境の整備を図るため、自転車等放置禁止区域内に放置させない環境づくり。 | 安全な交通環境を確保するため、駐輪場の防犯対策に努めることを推察すると、市民に好印象を与えている。 | | |
| 平成19年度 | 〃 | 〃 | 安全な交通環境を確保するため、駐輪場の防犯対策が望まれるところである。 | | | |
| 平成20年度 | 駐輪場の利用者に対し、利用の指導を行い安全な利用環境と放置自転車の減少に努めた。 | 自転車盗の発生が多く、盗難防止の措置を講ずること。 | 〃 | | | |
| 平成21年度 | 駐輪場の利用者に対し、利用の指導を行い安全な利用環境と放置自転車の減少に努めた。 | 自転車盗の発生が多く、盗難防止の措置を講ずること。 | 〃 | | | |
| 平成22年度 | 駐輪場の利用者に対し、利用の指導を行い安全な利用環境と放置自転車の減少に努めた。自転車盗の発生が多く、盗難防止の措置を講ずることが望まれる社会状況にあり、安全な交通環境を確保するため、駐輪場の防犯対策が市民に望まれるところである。 | | | | | |
| 平成23年度 | 利用者が安全で安心して利用できる駐輪場として整理整頓をし、利用しやすい環境づくりに努めた。、利用者には、より一層の安全な利用環境と放置自転車の減少に努めた。 自転車盗は絶えず発生しており、盗難防止の措置を講ずることが望まれる社会状況にあり、安全な交通環境を確保するため、駐輪場の防犯対策が市民に望まれるところである。 | | | | | |
| 平成24年度 | 利用者が安全で安心して利用できる駐輪場として、利用しやすい環境づくりに努めた。、利用者には、より一層の安全な利用環境と放置自転車の減少に努めた。 自転車盗は絶えず発生しており、盗難防止の措置を講ずることが望まれる社会状況にあり、安全な環境を確保するため、駐輪場の防犯対策と一層の利便性を確保した駐輪場が市民に望まれている。 | | | | | |
| 平成25年度 | | | | | | |
| 平成26年度 | | | | | | |
| 平成27年度 | | | | | | |

| 2-2 総合計画における単位施策成果指標 | 事務事業成果指標名 | | 前期目標値(単位) | 後期目標値(単位) | 指標の説明 |
|----------------------|--------------------|--|-----------|-----------|-------------------------------------|
| | 主要3駅における放置自転車台数(台) | | 715(台) | 700(台) | 駐輪場の計画的な施設運営を進めることで放置自転車台数の鈍化を設定した。 |

| 2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析) | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 |
|----------------------------------|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------|--------|
| | 活動実績 a (駐輪台数) | 2757 (駐輪台数) | 2569 (駐輪台数) | 2898 (駐輪台数) | 2444 (駐輪台数) | 2010 (駐輪台数) | 2139 (駐輪台数) | 2465 (駐輪台数) | | |
| 直接事業費 b (千円) | 14,479 | 14,692 | 14,459 | 14,356 | 14,334 | 14,376 | 14,755 | | | |
| 人件費 c (千円) | 165 | 165 | 165 | 165 | 161 | 148 | 148 | | | |
| 合計コスト d (b+c) (千円) | 14,644 | 14,857 | 14,624 | 14,521 | 14,495 | 14,524 | 14,903 | | | |
| 単位コスト d/a (千円) | 1台当たり5.3 | 1台当たり5.8 | 1台当たり5.0 | 1台当たり5.9 | 1台当たり7.2 | 1台当たり6.7 | 1台6.0当たり | 当たり | 当たり | 当たり |

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 → 直接事業費は自転車撤去処分業務委託料及び自転車等整理業務委託料である。
 人件費 職員2名×4回×5時間×時間単価3,000円＝120,000円
 地域安全監視員1名×4回×7時間×1,000円＝28,000円
 24年度放置自転車撤去台数470台

| 2-4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移 | 指標対応実 績（単位） | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 |
|--------------------------------|----------------|-------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | 後期目標値 に対する達 成度（%） | 776 | 702 | 559 | 546 | 456 | 573 | 470 | | |
| | | 90.2 | 99.7 | 125.2 | 128.2 | 153.5 | 81.9 | 67.1 | | | |

3 ■ 事務事業の自己評価結果

| 3-1 評価結果 (アウトカム自己分 析) | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 |
|-----------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 単年度 担当課評価 | A | A | A | A | A | A | B | | | |

- 4段階評価結果 A：上位目的である施策に貢献しているので継続する
- B：事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
- C：縮小等、事務事業としての見直しが必要
- D：事務事業の廃止が相当

- 判断の基準 ①必要性（必要な事務事業であるか）
- ②公共性（公が実施する意味があるか）
- ③妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
- ④効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
- ⑤有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
- ⑥市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

| 3-2 評価の内容 | 今後の環境変化を踏まえた課題認識 | | 次年度に向けて改善する取組み | 事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価 |
|-----------|---|--|---|--|
| | 平成18年度 | 自転車駐車場の収容台数が増えることにより、自転車等の盗難防止及び放置自転車対策が課題となる。 | | 自転車等放置禁止区域内の放置自転車がなく安全で快適な交通環境の整備ができる。 |
| 平成19年度 | " | | " | " |
| 平成20年度 | 駅周辺に放置される自転車対策及び自転車盗の発生防止の交通環境の対策が課題 | | 駅周辺に放置される自転車対策として放置自転車の利用者に対する指導の強化及び自転車盗の発生防止の啓発活動に取り組み。 | 自転車の利用者に対して駐輪の啓発を行い放置自転車の減少に努めたことにより撤去台数が143台の減少に繋がった。 |
| 平成21年度 | 駅周辺に放置される自転車対策及び自転車盗の発生防止の交通環境の対策が課題 | | 駅周辺に放置される自転車対策として利用者に対する指導の強化及び自転車盗の発生防止の啓発活動に取り組み。 | 自転車の利用者に対して駐輪の啓発を行い放置自転車の減少に努めた。 |
| 平成22年度 | 駅周辺に放置される自転車対策及び自転車盗の発生防止の交通環境の対策が課題である。引き続き、駅周辺に放置される自転車対策として利用者に対する指導の強化及び自転車盗の発生防止の啓発活動に取り組み。今年度は、自転車の利用者に対して駐輪の啓発を行い放置自転車の減少に努めた。 | | | |
| 平成23年度 | 駅周辺に放置される自転車対策及び自転車盗の発生防止の交通環境の対策が課題である。引き続き、駅周辺に放置される自転車対策として利用者に対する指導の強化及び自転車盗の発生防止の啓発活動に取り組み。今年度は、自転車の利用者に対して駐輪の啓発を行い放置自転車の減少に努めた。 | | | |
| 平成24年度 | 駅周辺に放置される自転車対策及び自転車盗の発生防止の交通環境の対策が課題である。引き続き、駅周辺に放置される自転車対策として利用者に対する指導の強化及び自転車盗の発生防止の啓発活動に取り組み。今年度は、自転車の利用者に対して2ロック施錠の呼びかけの啓発を行い盗難対策に努めた。駐輪場利用者は健康志向の影響もあり、自転車での通勤、通学の利用者が増えている一方、駐輪場の確保が難しく、利用者からの駐輪場スペース確保の要望は必須である。 | | | |
| 平成25年度 | | | | |
| 平成26年度 | | | | |
| 平成27年度 | | | | |

4 ■ 事務事業の総合評価結果

| 4-1 総合評価の 結果 | 結果 | | 審査会による改善方向の指示 |
|-----------------|--------|---------------|---------------|
| | 平成18年度 | A | |
| 平成19年度 | A | 継続して事業を進めること。 | |
| 平成20年度 | A | 継続して事業を進めること。 | |
| 平成21年度 | A | 継続して事業を進めること。 | |
| 平成22年度 | A | 継続して事業を進めること。 | |
| 平成23年度 | A | 継続して事業を進めること。 | |
| 平成24年度 | A | 継続して事業を進めること。 | |
| 平成25年度 | | | |
| 平成26年度 | | | |
| 平成27年度 | | | |